



佛 說

善惡因果經鼓吹

四

特 別
A5
3713
5



15
3713
5

善惡因果經龜鑑卷之第四目錄

- 一 金天カ福報
- 二 金光明カ福力
- 三 佛ケ金天カ宿善ヲ語リ五ノ弁
- 四 陸處舟中ニ住シ不構宅居
- 五 瞿ケ康山澤ノ優遊
- 六 宗祇生涯ノ行狀
- 七 鴨ノ長命カ方丈記
- 八 釋ノ道仙ノ傳
- 九 道林禪師ノ傳
- 十 單卷不受舜命ヲ
- 十一 匈奴ノ行狀
- 十一 徹禪師癩人ヲ化スル緣
- 十三 唐ノ文本カ受報
- 十四 公沙穆カ傳
- 十五 陳涉カ傳
- 十六 羅什ノ傳
- 十七 什師門弟ニ不許婚媾判
- 十八 曇摩耶舍ノ聰明ヲ謙悟
- 十九 宋人愚守株語
- 二十 漢人簀竹ヲ煮ル不熟

目錄

廿一 愚人第三重之樓ヲ望造

廿二 般特カ愚癡

廿三 道仙本貨財滿兩船營

廿四 蘓秦カ傳

廿五 太公望カ傳

廿六 張氏鳩ヲ祝ノ得福術

廿七 象護生日ニ金象ヲ得ノ縁

廿八 僧淵生日ニ銅錢庭ニ降ノ縁

廿九 婆提カ性吝并邪見

三十 難陀カ慣吝

卅一 郁惜カ財寶收斂

卅二 崔和性吝并悲母ノ不孝

卅三 房彦謙カ清貧

卅四 須達布施用問如來細釋

卅五 千那僧ニ金ヲ施與スノ縁

卅六 和睦語言ノ名義

卅七 凡下語言多先古語引用邪ナ弁ナ

卅七 智勤語言和睦凡ノ引用

卅九 鳥ノ鳴衆人惡ノ説

卅八 衆人ニ愛敬セラルト云引用

四一 趙衰趙盾事狀

四二 李燮カ清節

四三 人ニ愛敬セラルノ宿善

四四 陽由カ暴虐

四五 晋ノ靈公無道

四六 殷ノ紂王ノ不君凡ノ名義

四七 秦穆公慈愛并陰德

四七 所受食ヲ三分凡ノ弁別

四九 康季孫殺業遂不止説

四八 漢ノ高祖ノ大度慈惠

五一 孟嘗君招食客數千

四九 平原君食客三千人

五三 棄老國ト云物語リ

五〇 懶婦姑所打瘡痕化歎

五五 婦姑食ハスル事

五一 婦姑不孝ヲ受現報縁

五七 蘓秦妻ト嫂ト同居凡義

五二 姜肱兄弟六人不分離

五九 妙法ノ德義

五三 華氏國ノ白象聞法薰カ

六一 睡眠比丘并端坐思惟沙弥

五四 德樂止カ睡眠

六三 齊國ノ三勇

五四 朗氏カ不遜

五五戒五常全同九ノ引文 六學業ノ徳義
如地農子 七君子三患并ニ學行ノ名義 六支謙ノ學術
 充法上ノ睿智爽明 七畜生ト云ノ異説
 七旁生ノ三義 七畜生三種ノ大意并ニ細釋
 三人畜并舉ハ二義評釋 七今此經ハ一代ノ結經多ノ説
 五琳法師儒道ヲ破ス論 六佛出興有因果兩字理
 七如來父王示深信因果説 七今經一心五教通判多ノ證
 七從善ハ儒釋大音同證 善 八今父我子ニ天然器ヲ示ノ理
 八佛教必ス衆機ニ應巧説



善惡因果經龜鑑卷之四
 有安居立宅種種豐備

問種々豊備トハ富家ノ珍財ナリステニ上ニ有富トイハル重出ノ
 失ニアラスヤ答業因多端ナレ感果又タニアラス上ニ有富トアルハ
 惣ノ富報ノ果ヲアク又タ上ニ醜陋而富貴ナルト云ハ次上ノ句ノ
 無舎屋處々浮寄スルト云ニ對スルノ詞ナリ今爰ニアクルノニ
 条ハ是其意別ナリ故ニ惣別兼舉ク以テ重出ノ過ナレ取望不
 同ナレ一概ニ定メカタシ今要トスルトコロハ安居立宅ノ一句ナリ
 下ノ自無舎屋ノ一句ニ對スルノ故ナリタトハ須達大福長者
 タリトイヘトモハシメハ貧窮ニシテ客作傭カノトコロ定ストヒ
 アリキ七タビ富七タビ貧トイヘル類ナリ 昔佛在世ノトキ舎
 衛國中ニノ長者アリ其家巨富ニシテ財寶無量ナル事其

金天
 福報

二 金光 明因 綠 三 金天 前生 福業

數ヲレラストキニ一男子ヲ生ス身体金色ニシテ端正無比ナリ
故ニ名テ金天ト云其生スル日家ノ中ニ自然ニ一井水ヲイタ
縱廣八尺又深モ八尺ナリ汲用ニ能ク人ノ意ニカクテ衣ヲモトメ
欲ノ汲ス衣ヲイタシ食ヲモトメント欲スレハ食ヲ得ル金銀米錢
一切ノ所須意ニシタカヒテ得ルナリ 又閻婆國ニ長者アリ一
女子ヲ生ス端正ニシテ身体金色ニシテシカモ光明アリ故ニ名テ
金光明ト云初メ生ルトキニ家ノ中ニ自然ニ八尺ノ井アリ是
又意ニカナフテ種々無量ノ珍寶ヲイタス即金天婦ナリ
後ニ金天佛ヲヨヒ衆僧ヲ請フ供養ス佛カレカタメニ説法
シ玉フ金天夫婦父母ミテ羅漢果ヲ得タリ 阿難即佛ニ
白ン言サク金天夫婦宿イカナル福業アツテ豪富ノ家ニ生シ身
体金色ニシテ又自然ノ八尺ノ井アリテ種々ノ財物ヲイタシ

福力自在ナルコトヲ得ルヤト佛阿難ニ答テノ云ク過去九十一
劫サキニ毘婆尸佛人涅槃ノ後ニ諸比丘アツテ衆生教化ス
一ノ村中ニイタルニ村人競テ供養ストキニ夫婦アリハチハタ貧
窮ナリ他ノ供養スルヲ見テ啼婦夫ニ向テ問フ何故ッ啼美ルト
夫カ云我父財寶庫藏ニ滿トイヘトモ我身ノ上ニライテ貧困ナリ
故ニ我前身ニライテ布施セス今又僧ニアフテ不施未來ニ貧
賤ナラシコト必セリト此トキ婦故舎ヲタツヌルニイカサマ財物ヲ
得シトアラシト云テ夫婦トモニ故舎ニイリテタツ子モトルニツ
金錢ヲ得タリ又婦一ツノ鏡アリ夫婦同心ニ持來ノ比丘ニ施ス
故ニ今福樂自在ノ家ニ生ルナリトノ玉ヘリ 已上三驗賢愚經 如是類
舎宅ニ安住シテ財寶豐饒備足ナルモノナリ

有自無舎屋處處浮寄

四

陸處
舟中
遊興

浮寄トハウキマトリト訓ス本是貧乏ニシテ居室相ヒモトルニ
 所ナレ或ハ賢人智人子イテ後諂私欲ノ交ミダリツキラウテ山林ニカキ
 コモレルモアリ **齊ノ張融**中書即トナル武帝ニ謂云臣陸處
 屋ナレ常ニ水上ニ舟ヲウカステ其内ニ居ノ優遊セシトナリ
 武帝陸處カ從イ兄緒ト云モノニ其スヲ問モフニ緒カ云張融モマ
 陸處ニシナレクイマダ舎屋アツテ居止スヘキトコロナク權カ小舩ヲ
 ツクリテ乘アリキ岸ノホトリニ居セリトイヘリ武帝大ニ咲リト南史
替康トイヘル人ハ常ニ山澤ニ遊テ魚鳥ヲ見テ其心ヲタノ
 レトナシアリ 文選ニ **宗祇**ハ紀州ノ人ナリ姓ハ飯尾氏少ヨリ
 和歌ヲコノミ風月ヲ以生涯ノ樂トセリ尤モ連歌ノ道長甚ノ
 人ナリモトヨリ京師ニ心敬法師アル事ヲキ、慕蘭スルコトコニ
 年久レヨツテツ井ニ紀州ヲ去テ洛都ニ來リ心敬ニカハ歌道ヲ

六

替康
山澤
遊

五

宗

傳フルコト年アリサテ文明三年ニ都ヲイテ坂東下野ニ行常
 縁ニ隨ヒツキ和歌ヲ問ヒ古今集ヲ傳授レ又洛陽ニカヘリ西ハ
 九州ヲキマ東ハ奥州ニイタリ北地ニアソビ南陽ニカケリ常ニ
 定宅居ナク旅邸ヲ以家トセリ常ニコノシテ香ヲタキ又長
 鬚ヲ愛セリ衆人問モフアハ荅テ云吾鬚ヲ愛スルニアラス
 香氣ヲトメタメナリト文龜二年七月ニ逆旅ニツイテ卒レ
 玉ヒ又 宗祇終焉記 **鴨長命**ハ舎宅ヲ毀ステ、居處トテモ
 サタメス一丈四方ニ方丈ヲツクリテ行ケルトコロニシタカヒテ是ニ
 居セシトナリサレハ宅ナケレハアラシ事ヲ願ヒテ憂悲ヲ生シ宅アハ
 又造作思ヒシクルム或ハ有宅或ハ無宅惡業ノ成セルトコロ
 ナリ唯父母生死ノ家ヲ出テ離テ無漏真實ノ寶宅ニイタス
 事諸佛ノ願シテルトコロ人事ノハケマストコロナリ

七

鴨長
命

有鳥棲鹿宿擒狩同類

擒狩ハ擄世本ニ擄ニシクルアマレリ予古本ヲ見ルニ擒狩ニクル
 譬喻經ニ擒狩薛荔トアリ今所謂ル禽ハ白虎通鳥獸惣名
 尔雅ニ足而羽謂之禽四足而毛謂之獸飛曰禽走曰獸矣
 禮記曲禮註禽擒也言鳥力小可擒捉而取之矣狩杜預云
 狩圍守也矣禮記曲禮註獸者守也言力多不易可擒先須
 圍守然後可獲矣今私ニ擒狩ハ禽獸也禽ハ羽類ノ惣名ナリ
 上ノ句ノ鳥棲ニ應シ獸ハ毛類ノ惣稱ニシテ上ノ句ノ鹿宿ニカ
 如是ナストキハ句義アキラカニシテ曉シヤスシ呼鳴世俗ヲ見ル
 或ハ劫奪殺賊ノタメ或ハ鳥獸田獵ノタメ山野ニタヨリテ石ヲ
 タニテ褥トシ苔ヲタキテ枕トサタメ草ヲムスヒテ雨露ヲ遮ル
 恰麋鹿ノ臥所ニ類ス又岩石ノ岫ヲモトメテハ身ヲヒソム

八

仙釋道

九

道林 禪師

一トトニ虎狼ノ跡ニ多ク又ハ樹下林間ニタメスニハ枝葉ヲ攀テ
 長キ夜ヲアカシ竹裏ニアツテハ永キ日ヲクラス是ハ此ノ鳥類ノ
 スメルカコトシ但シ上古六人含室ナレ或ハ岩洞ニ穴居レ原野ニ
 寓處ス後世ノ聖人はニカウルニ宮室ヲ以テ棟ヲ上ニシ宇ヲ
 下ニシテ以風雨ニ待ス繫辭傳ニ謝靈運カ山居賦云古巢居
 穴處曰巖棲矣釋ノ道仙ハ灌口山ノ竹林寺ニ入り出家シ
 衆ニ對シ誓言テ曰我道ヲ得ズハ再ヒ此山ヲイテシトハルカニ人
 跡ヲ絶テ菴ヲ巖曲ニ結テ居セリ一トトニ衆ト群サシ事野栖
 禽獸ノコトシト道仙傳ニ道林禪師秦望山ニ至テ長松ノ上ニ
 棲止ス人は是ヲ鳥窠禪師ト云復鵲アリテ其側ニ巢入メタ
 鵲巢和尚トモ云ナリ傳燈錄ニ見エタリ

有衣毛茹血不識文字

有衣毛茹血不識文字

十

單卷
舜命
不就

茹ハ忍與切飲也食也禮記茹毛飲血矣今茹ハ飲也字訓
 用ニ任孝恭檄云茹血食腥本非流品矣今イハ元中國ノ人
 事ノ上ニライテ如是人アリトイヘトモ多ハ是夷狄南奴ノモノヲ
 サス此即ハ難邊地ノ隨ニテ曾更ニ清淨戒ニツトキ故ニ今
 生ステニ邊鄙ノ生ヲウク **分**單卷ト云モノアリ是賢人
 ナルコトヲ聞テ舜天下ヲ以卷ニ讓ニトシ玉ハ卷カ日予ト宇
 宙ノ中ニ立テ冬日ニハ皮毛ヲ衣夏日ニハ葛締ヲ衣春ハ耕
 形以動勞スルニ足リ秋ハ斂斂レ形以休食スルニタレリ我レ天
 地ノ間ニ道遙ノ心意自得ス我何ノ不足アツテ天下ヲ持コトヲ
 世マト云テツサニ舜ノ任ニシカスト 祖庭事苑ニ 是賢人ナリトイヘトモ
 常ニ皮毛ヲキケルナリ北方ヲ狄ト云鳥ノ羽獸ノ毛ヲツリテ
 衣トシ穴居シテ粒食セス唯鳥獸ノ血ヲスルモノアリト 禮記玉制ニ
見エタリ

十一

匈奴
行狀

其獫狁犛獍ノトモカラ常ニ畜生ト隨ヒミハリ水草ヲ逐
 遷リ城郭モナク定ル常ノ居處トテモナク 耕田ノイナニモセス
 文書ナケレハ文字モヒラス唯言語ヲ以約束ヲナレ鳥鼠狐兔ヲ
 殺シテ常ノ食トシ利アルトキハ進ニ利ナキトキハ退ク遁走事ヲモ
 ハチス苟ニ利ノアルトコロハ禮義ヲモヒラス仁道ヲモタサス上ニ
 君王ヨリ以下感ニ以テ畜類ノ肉ヲクハラヒ血ヲニ其皮犛ヲ
 衣旃裘ヲカウムル壯ナルモノハ肉ノ肥テ美ヲクハラヒ老タルモノハ其
 餘ヲ食フ壯ニ強健ナルモノヲ貴ヒ老テ軟弱ナルモノヲ賤メ父
 死スルトキハ其母ヲ妻トシ兄弟死スレハ皆其妻ヲトリテ我
 妻トス 史記匈奴列傳ニ 一コトニ畜類ニチカレ文字ヲヒラサレハ
見エタリ
 道ニイタル事遠ク邊土ニレテ佛法ノ善事ニアハサレハ結縁サレ
 ウスレ故ニ愚ナルモノハイヨク愚ニレ良縁マスク遠ク苦ヨリ甚

十二

徹禪師 人ヲ

入冥ヨリ冥ニ入ル **爰**唐ノ鋒州南孤山陷泉寺ノ沙門徹禪師曾行キモラニ癩病人ノ穴ノ中ニアルニアヘリ徹禪師癩人ヲ穴中ヨリイタシテ山中ニ將行穴ヲホリ其中ニヲキ食事ヲタマハリ法華經ヲ誦セシメ玉ヘリレカルニ此者モトヨリ卑賤ニシテ文字ヲシラス加之根性曾鈍ナリ故ニ誦レウレトカタシ然トモ禪師句々ニ念比ニ是ヲ授ク此モノ辭倦セス法華經ヲ誦スステニ半ニ向トセシトキ夢中ニ教モノアリイマヨリ以後稍聰利ニシテ五六卷ヲ得ヘシト癩瘡漸ク愈コトヲ覺ラサテ一部スニシラリヌレハ鬚眉本ノコトクニ生ノ麁色常ノコトシ記ニ是文字モシラス蒙昧愚癡ノ人ナレトモ善友ノ勸示ヨリテ現ニ惡病除差ノ華報昭然トシテ得ル未來ノ果報ムシロ失セサルコトアラシヤ

有端坐受報

十三

受報 文本

端坐トハ正坐ナリ報トハ現在ノ果報身ヲサスナリ下ノ客作無地ニ對ス上ニ記スコトク須達福祐ニミツトイヘトモハシヌ客作傭カセリ是ハ端坐受報ノ人ニアラス **唐**ノ中書令文本ハ江陵ノ人ナリ少ヨリ佛ヲ信シ法華經ヲ念誦ス或トキ船ニイテ具江ノ中ニ行又船マフレテ人コトクク死ス文本モ水中ニ没ス人アツテ云唯佛ヲ念共ハ必ス死セシト如是三度是ヲイフ文本教ノコトク佛ヲ念シヌレハ忽ニ波ニ隨テウカミ出ステニ北岸ニアカル後ニ江陵ニライテ大齋會ヲミウク衆僧アツテ來ル一人ノ僧獨リノコリテ文本ニ謂云天下ニサニ乱ル君幸ニ其災難ニアツカラシ終ニ太平ニアラフテ富貴ノ身ナラント言畢走出送テ外ニイテ是ヲ見ニ見エス後ニ文本食スル椀ノ中ニ舍利ニ

粒ヲ得たり後果ニテ富貴ノ身トナレリト眞報記ニ是亦出たり

有客作無地

客作トハ客ハ寄ナリ他家ニ寄宿ノ賃ヲトリ他人ノ事ヲ作ラ客作ト云ナリ順ガ和各ニ云楊氏漢語ニ客作兒和各豆久乃此比止ト訓ス世俗ニイハル手間師賃取トイヘル類ナリ襍寶藏經云財物都無客作傭力得米四升矣

十四

沙穆

傳

千五

陳涉

傳

學ニ遊賃糶ナレ乃チ衣服ヲカヘテ客作傭力セリ吳祐穆ヲ賃ヒ米穀ヲ春シム祐即穆トカタルニイハル公沙穆ナルコトヲルヨツテ大ニ驚キ共ニ杵臼ノ間ナリテ交交トシカタルト公沙穆傳見エ陳涉ハ陽城ノ人ナリ少トキ貧ムカレ人ノタメニ客傭ニ耕農ストキニ耕傭ヲ輟墾上ト云トコロニ行テ悵恨ス事久ヲ

曰吾苟王富貴ノ身トナラハ此困苦世レ事ヲ相忘ジトナリ傭者

笑云汝傭農ヲテ身トシ幾世幾年ニシテカ何富貴トナル事

アラント陳涉太息ノ曰嗟乎燕雀安知鴻鵠志哉トイヘリ此

コ只鴻鵠ハ羽翼イマタ合ナルトキヨリ四海ヲカケントラモフノ

心アリ燕雀ハカツテ鴻鵠ノ志ヲシラカルコトク汝等燕雀ノ

心ヲモツテ我鴻鵠ヲシラレトナリ故ニ後ニ果ノ秦ヲホロボシテ

陳涉世家ニ見エタリ

有聰明高爽

聰明ハ説文ニ察也增勻能聽耳力也矣耳ノ利ナルヲ云故ニ耳トト訓ス莊子耳徹為聰是也明ハ通也發也顯也著也辨也曉也又目力也矣目ノ利ナルヲ云莊子目徹為明是也朱氏云聰明睿智矣高トハ説文崇也玉ニ上也遠也長也爽ハ廣

十六

羅什 聰明

韻ニ貴也説文ニ明也增句ニ清快也矣今イニ耳目人ニスハ
 利ニシテシカモ氣幹高爽ト高クシテ人ヲ卒リ
 羅什此ニ童壽ト云天竺ノ人ナリ世々相國ノ位ニ任ス什ノ
 祖父達多僞僞トノスケル聰明ニテ各國ニテモシラレ又什ノ
 父鳩摩炎モ聰明ニテ懿ナル節義アリ故ニ相國ノ位ヲツカセト
 シ王ヘトモ不受出家ノ東方葱嶺ヲワタリ龜茲國ニ行ヌ龜
 茲王其榮花ノ家ヲステレ事ヲキイテ敬ヒ請ノ國師トシ王ノ
 妹アリ年ハシメテ二十歳隸悟明敏ヲ一名目ヲスクク必ス解シ
 一名耳ニルル則誦ス以テ是ヲ妻スステニシテ羅什胎ニアルトキ
 其母慧解常ニマカレリト後什生シモヒテ聰明睿悟ニシテ其
 タクヒアルコトナレトモニ姚興ノ主什ニ謂テ曰大師ノ聰明超悟
 天下ニニツナレ法種ヲツカシメヨトテ伎女十人ヲツカハシテ嫁セシメ

十七

門倉 昏媾 許美 凡月

十八

法明 傳

至フナリ 梁僧傳ニ 見エタリ
 婚嫁セシコトヲラシエタマヘナラシト云羅什ノ云汝等我コトク
 セトヲモハ、能此針ヲ食フモハ室女ヲタクハフヘシト云テ針
 中ニ針ヲ入テ進ム諸僧乃止ト 晉史ニ 羅什代々聰明超悟
 人ナリ 曇摩耶舎此ニ法明ト云罽賓ノ人ナリワカシテ
 學ラコノ三年十四歳ナルトキ弗若多羅ノタヌニシラル漸ク人
 ナルニシタカツテ氣幹高爽ニシテ雅ヨリ神靈ノ慧アツテ太
 經律ヲカ子見明悟敏ニシテ群品ニ超出テ思ヲタレ禪ニ
 入テ心ヲ七菩提分ニアソバシム時ノ人是ヲ浮頭婆馱
 タクラフ 梁僧傳ニ 見エタリ

有闇鈍無智

宋ニ耕モノアリ兔走テ株ニ觸テ頭ヲ打テ死セリ此モノ

十九

宋人

守株

二十

漢人

箒竹

愚人

匠人

ノ語

ヲモエラ多耕ヲセヨリ兔ヲ得ニハレカレトテ其耒ヲステ耕作ヲ
 ヤメテ終日株ヲ守居テ復兔ヲ得シトヲ子カヘトモ更ニ得ス身
 宋國ノ人ノ多ニ笑タリト **漢ノ人吳國ニ適ス吳人箒竹ヲ**
 煮テモテテス漢人問是何モノソヤト云ハ漢ハ雪國ナル故ニ
 箒ナシ爰ヲ以問ヘル吳人ノ云是ハ竹ナリトトキニ漢ニカヘリテ
 其牀ノ下ニアル箒竹ヲトリテ煮テ食ハントスレドモツ井ニ熟ス
 ヲツテ腹ガチテ云吳人 **轆轤トシ我ヲアサタナリト**
 見エタリ **ハカレ闇鈍無智ニシテ知ルトコロナキモノアリ富家ニ行テ三**
重ノ高樓アルヲ見テ此念ヲナサク我財寶アラハ何ソ彼ニ
ヲトシニイカカツクヲサラント即木匠ヲ喚テ問テ曰汝三重ノ
樓ヲツクル事ヲ得ヤト木匠カ云我常ニツクルトコロナリ即
木匠ニ云今我カタニツクレイハク下ノ二重ハ我々サルトコロ

縁カ本

般特

廿二

ノ語

ナリ先ツ第三重目ヲツクレト云木匠カ云コトナリアルコトナレ
 最下ノ二重ヲツクラスレテ第二第三ノ重ヲツクルコトヲ得ヤト
 時人是ヲキイテ大ニアヤレニ笑フナリト **百喻經ニ今レル**
トコロノ三驗マコトニ愚蒙ノイタレナリ推知ヌニテ是宿業
ナセルトコロ歟 **佛弟子ニ朱利般陀ト云アリ兄是ニ守口攝**
意身莫犯如是行者得度世ト云一偈四句ヲヲヒユルニ四月
マテニ前ヲボユレハ後ヲワスレ後ヲボユレハ前ヲワスル兄
是ヲ可ノ云汝ハ佛法ニライテ縁ナシトテ家ニカヘレト門
外ニ引出ス般陀外ニアツテ家ニカヘラス啼突シテヤマス其
トキ世尊天眼ヲ以見玉則神カラ以彼カ誦瓦トコロノ伽陀
ヲ轉ノサツケ誦セシメ玉フニ今ステニ誦レ得ルナリト問何ニ縁テ
如是闇鈍無智ナルソト云ニハカレ迦葉佛ノトキニ大善知識

タリ故ニ迦葉佛ノ三藏ノヨリナク具足シ受持スレカトモ經法ヲ聖惜シ智慧ヲ蔽藏ノ曾テ他人ノタメニ文義ヲ解セス此業縁ニヨツテ今闇鈍無智ノ報タリト增一阿含經法句新婆娑論等意

有經營始得

經營トハ二字ヲ升子テイトナニト訓ス韻會云縱橫為經回旋為營矣イフコト只世路ノイトナニカハハ商賈ニテ身ヲトササ下欲ノ縱橫ト東西南北ヲカケリ或ハ回旋ト十方ヲメクリマリキ曉云霧ヲハラツテ私ヲイテ夕ニ六星ヲイタマイテソクカヘル如是ノ漸ウルモノアリ釋道仙ハ康居國ノ人ナリ本俗ニアリトキ遊賈經營ヲ以業トセリ梁周ノ間吳蜀ニ往來シ江海上下シ珠寶ヲアツム故ニ其獲トコロノ貨財兩船ニ滿ツトキニ人ノ日錢數十萬貫ニアタルト梁僧傳ニ見ユタリ或ハ空ク日月ヲツクリテ

廿三

道仙傳

廿四

蕪秦傳

廿五

勞シテ功ナキモアリ士農官職ニテ以同シムカシ蕪秦イテ學スルコト十年學イマダナズシテカヘル嫂是ヲ見不起妻機ヨリ不下秦歎ノ曰我學達セズシテカヘル妻ト嫂ノ為ニ召ララル乃去テ東ノ方齊ニ行テ鬼谷先生ヲ師トシツカヘテ太公望カ陰符ノ兵書鬼谷ノ揣摩ノ二章夜ヲ日ニツキ讀睡ラト欲スス雖ヲ引テ目其股ヲ刺血流テ踵ニイタル三年ヲ經スレテ學成シ齊ニツカヘテ丞相ノ位ニホリ齊ノ印ヲ佩テマサニ秦我家ニカヘル嫂遠クイテ、秦ニムカフ秦嫂ニ謂テ云昔シ秦ヲ見テ不起今六十里我ニ迎フハ何事ソヤト嫂カ云今六國ノ印ヲ佩テカヘリ各ヲ天下ニアケ祖宗ヲ榮顯スルヲ聞ク功コヲ以來リ迎フト秦カ云ク我カ榮達セシコトハ是レ嫂ノ功ナリト戰國策ノ又太公望

生テヨリ來好テ經書ヲ學シ心ホク林ホク道ホクニシテ姓ホク産ホクヲコトセス
殷ノ末大ニ亂レテ後世生ホク計ホク心ニカチハストキニ和ホクニイテ、小麦粉ヲ販
大風ニアラテ散ス故ニ利ヲ得ス是ヲステ、牛ヲ屠ホク賣ホクテウル
世間大ニ熱スル故ニ人カハス是ヲモステ、漿ホク作ホク水ホクヲウルトキニ
天ス、是又利ナレチ飯ホクヲウレハ其歲豐年ナリ往々ホク并ホクニ
利ヲ得スト云テステストキニ其妻馬氏辞ホクレ去リ又大公望
西周ニ聖人アリト云ラ聞テ四ニ行テ磻溪ノ谷ニイタリテ
針ホクヲマケズ直ホクニシテ魚ホクヲツリテ活ホクスル事ヲナス周ノ文王獵ホクニ
イテ是ヲ見テ問テ曰釣ホクヲ水ニ沉ホクルニ何ホクソ釣ホクヲ直ホクニシテイカカ
魚ホクヲ得ホクマ太公望カ云命ホクニソムク魚ホクヲトラシトナリ王曰老人
爰ホクニアツテツリスルコト幾ホクトキソ太公望カ曰ク今ホク一年ホクヲ經ホクタリ
又問汝ホクニ妻ホク息ホクアリヤ答曰ナシト王曰汝妻息ナキコトヲ憂ホクマ

因是經書卷四

十一

答曰我必ス妻息ナキコトヲウレエス只國ニ王ナキコトヲ憂ホクフ
文王曰今紂王アリ何ソ王ナキトハ老人曰紂王ハは無道ノ主
ナリ王タルニタラス文王是ヲ聞テ賢人ナルコトヲシリテ同ホクシ
車ホクニノセテ行テ岐州ニ至テ桓且公ニ封ホクセラル、文王死シモテ
後武王立テ太公ヲ拜ホクノ師トシ紂ホクヲウタレシトナリステニ
天下ヲ得ホクルニヨシテ封ホクノ齊ホク侯トシ玉ヘリ尚書中侯ニ右ニ箇
驗ホク往々ニ經營ホクシテツ井ニ其利ヲ得ラレシ人ナリト云云
有不求自至

今イハ元轉輪王ノ七寶粟散王ノ財產長者居士ノ珍寶
子カハサルニ自ウルモノアリニナ是宿世ノ積德以ホクイタストヨロ
ナリ
長安ニ張氏ト云モノアリ獨ホクリ室ホクニ居ス鳩來ホクテホク止ホクル
張氏祝ホクノ云汝モシ我カタメニ福ホクトナラハ梁ホクノ上ホクニホレ若ホク又福ホクト

廿七

象護
得金
象綠

僧淵
庭銅
錢ル
上迷

廿八

オラハ我懐ノ中ニ入レト即鳩飛テ懐中ニ入リストキニ手ヲ以是ヲ探ルハ在トコロナシ唯一ツノ金帶鉤ヲ得ル是ヨリ後子孫繁榮ニシ家財モトメサルニ得玉ヘルトナリ搜神記ニ見エタリ昔摩竭陀國ニリノ長者アリ一男子ヲ生ス相貌端正ニシテ甚愛敬シツヘキモノナリ其生ノ日蔵ノ中ヨリ自然ニ一ツノ金象出ツ父母歡喜ノ靈瑞ニカセ名テ象護ト云此兒漸長大ニナレハ象モ隨テ大ナリステニ能ク行歩スレハ象モ亦行歩ス出入進止常ニハナレス象ノ大小便ヨリ好金ヲ出是ノ因縁ニヨツテ庫ノ内ニ財寶ミテリ象護長大ニテ常ニ象ニ乗テ東西ニ往來ス賢愚經ニ見エタリ釋ノ僧淵家モト大ニ富リ淵ハシテ生トキニ及シテ天ヨリ銅錢ヲ庭ニラス諸親内外其福報ヲ難セスト云コトナシ高僧傳ニ見エタリ上來ノ三縁等不

求自得ノ福カナルモノナリ

有富而慳貪

ソレ夫ニ諸佛ノ大悲ハ布施ヲ初トス九品ノ邪迷ハ慳貪ヲ本トスレカルニ今巨富ニシテ還テ不施將來ノ苦果不招來モノヲヤ昔佛在世ノトキ舍衛城ノ中ニ一ノ長者アリ婆提ト云家ニ居テ巨富ニシテ財產無量ナリ其家富トイヘトモ慳吝守護ノ不著不暇鹿衣鄙食ヲ以テシテ妻子眷屬奴婢僕從朋友知識及ヒ沙門等ニホトコサス復邪見ヲシテ善根ヲ断スレカモ又子息ナレ命終ノ後アラスル財寶コトク公門ニイル波斯匿王佛所ニイタリ佛ニシテサク婆提長者今日命終セリ何レノトコロニ生スルヤ佛ノ至ク婆提長者方レノ福善ステニツキテ今正ノ啼哭地獄ニ墮セリ波斯匿王佛ノ

性吝
婆提

廿九

所説ヲ聞テ云婆提昔レイカナル業アツテカ福家ニ生レ今マタ
何ナル惡ヲツクリテ墮獄スルヤ佛ノノ美ク過去久遠劫ニ迦葉
佛アリ入涅槃ノ後チ此長者舎衛國ニアツテ田家ノ子ト
ナレリ辟支佛來テ其家ニイタリ乞食セリトキ長者誓
願ヲナサク此善根ヲ以我世々ニ生スルトコ財寶多クト
忽ニマタ悔心ヲ生セリ我向ノ食ヲ以奴婢僕從ノモノニ與フ
ヘキモノヲト爰ヲ以富樂ノ家ニ生レ又怪吝守護ノ自衣
食セス還テ墮獄セリト增一阿含經ニ又佛在世ニ舎衛國ニ
長者アリ難陀ト云大福ヲ財寶限量アルコトナレマサニ
豪富ニ處ストイヘトモ信心ナク憍貪嫉妬ニシテ門閤七
重ニツクリ守門ノモノニイハク乞食非人來トモ入ルコト
ナカレト庭上ニ鐵ノ網ヲハリテ飛鳥ノ來テ米穀ヲクハコトヲ

三十 難陀 堅吉

フセケリ唯一子アリ梅檀香トナツク命ヲハルトキニ子ニ謂云
吾病必ス死ナニ若レ吾レ死ノ後財寶費耗ス事ナカレ沙門
及ヒ婆羅門ニ施ス事ナカレ此諸ノ財物七世ニ供スルニ足トイ
ハリテ命終ス還テ舎衛ノ旃陀羅ノ家ノ盲母ノ腹ニ生ス
則生ノ此兒モ盲タリサテ年八九歳ニナルトキ盲母杖一ツ
食器恒器ノ一ツトヲアタヘテ曰汝ステニ無目吾ニ盲目
ナリ自乞食ノ餘命ヲ活セトヨツテ此盲兒家々ニ乞食
スルニ梅檀香カ家ニイタル守門ノモノイカリテ手ヲトリテ
深キ坑ノ中ニ擲入レ左ノ臂ヲ折頭ヲ破ル人是ヲ見テ盲母
カタル盲母匍匐ハフクノ杖ニスカリ盲兒ノトコロニ來リテ言フ汝イカ
ナル憊たがアツテ此ノ苦ニアヘルト子母ニコタヘテ云我サキニ梅檀
香ノ家ニイタリ惡人ノタメニ打擲セラル事如是佛トキニレ

卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十

メテ阿難ニ告テ至少難陀長者慳貪ノ業因ニヨツテ今旃
 陀羅カ家盲母子トナリ其身モ亦盲報ツケ此ヨリ命終
 阿鼻地獄ニ墮スヘレト故ニ佛阿難ニ告テ若人財寶ヲ積
 自衣食セス亦復布施セサルハ愚中之愚是ニスキタルハナレ
 是故ニ智者ハサニ布施ヲ行ノ生死ヲ出シトモトメ慳貪ヲ
 生シ無邊ノ苦ヲウクル事ナレト出羅經サテ世間區々ニシテ
 慳貪布施唯人ノコモロニアリ晋 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 聚斂レヲコノミテ錢ヲ積ムコト山ノコトクニ數千萬ヲ得テ晋 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 蔵ヲヒライテ其子超ニアタヘテ取トコロニカス超ハ布施スルコトヲ
 コノミテ一月ノ中ニ諸眷屬ニ散シ與ヘテミナツクセリト晋書 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 崔和崔和ハ太守ノ位ニ任シ家大ニ富メリレカレトモ性ハナク崔和 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 其母春ニイタリテ董ノ羹董ノ羹ヲクラハシコトヲ思フ崔和崔和 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十

卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十

買テ母ニアタヘスト魏史 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 餘人ヲマコトニ知ヌ如是人來報遠ニアラスヲフルヘシ余 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 有貧窮好施有貧窮好施 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 貧窮ト八月令賜貧窮ノ註疏云無親曰窮矣皇氏曰長無 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 謂之貧窮暫無謂之之絶矣房彦謙 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 護トナレリウルトコロノ俸禄俸禄ニテ以諸親朋友ニホトコレテ
 ツ子ニ空ナラシコトヲイタス嘗嘗子玄齡ニ謂テ云人三十
 官禄ニアツカリテ富我ヒトリ官位ニ居テ貧レ下孫ニツクル
 トコロ唯清白ニアルノミト隋書 卅一 卅二 卅三 卅四 卅五 卅六 卅七 卅八 卅九 卅十
 窮ナリ財產アルコトナレイタリテ道德ヲ信ストキニ佛布施佛
 行スルコトヲ教ヘ玉フコトヲキイテコノシテ布施ヲナセシ人ナリキ
 須達佛ニ白シ言サク多ク布施セシカ將少ク布施セシカト佛佛

因果經卷四

一十五

加五 千那 僧金 ヲホト スノ縁

至ハクホトコストコロ多シトイヘトモ報ヲウルコト少キアリホトコス
 事少シトイヘトモ報ヲウルコト多キアリ謂ク多ク布施スヘトモ
 至心ナク貢高自大ニシテ邪倒ノ見ヲ信シ快士ヲ得サルカ如ク
 報ヲウルコト少シタトヘハ惡田ニ種ヲ下コト多シトイヘトモ實
 フサムルコトスクナキカ如シ又少シホトコストイヘトモ歡喜恭敬シ
 アタヘテ又々報恩ヲウケコトシノズ佛及ヒ縁覺聲聞
 等ノコトキハホトコストコロ少シトイヘトモ報ヲウルコト大イナリ
 タトヘハ良田ノ種トコロスクナレトイヘトモ實ヲサムルコト多キカ
 コトシ菩薩本行經ニ迦羅城ノ中ニリク畫師アリ千那ト云多
 刹陀羅國ニ行テ畫カクコト十二年ニシテ黄金三十兩ヲ儲ケ
 得タリステニ本國ニカヘルニ弗迦羅城ノ中ニライテ鼓ヲウチ太
 會ヲナス聲ヲ聞テ行テ衆僧ヲ見テ信心清淨ニシテ即維

那ニ問フ此衆中イククバカリノ物ヲ以テ今一日ノ食トシ
 玉ヘルヤト維那ノ云三十兩ノ金ヲ以テ一日ノ食トスルニタレト即
 畫師モウケ得タルトコロノ三十兩ノ金ニテ維那ニ付與シテ我
 タニ衆僧ノ一日ノ食トナシ玉ヘト云テホトコシ空手ニシテ我家ニ
 其婦問テ曰十二年ノ間勞作シテ何物ヲカ得タルト夫云我三
 十兩ノ金ヲ得タリト婦ノ云其金ハ今何レノ處ニカアルト夫ノ云今
 日皆衆僧ニ布施セリト婦即其夫ヲ縛吏官奉行ノ廳ニ送
 云罪ヲタシ事ヲ決断セシコトヲソム大官問何ヲ以テ故ニ
 解イマシムルソト婦ノ云我夫ト狂癡ナルモノナリ十二年勞苦ニ
 黄金三十兩ヲ得タリレカルヲ妻兒ニアタヘス悉ク以テ他ニホトコシ
 故ニ縛將來ト云大官夫ニ問何ヲ以テカ妻兒ニ供給セズシテ
 他人ニアタヘタルソト夫カ云我前生ニ功德行セサル故ニ今世ニ

貧窮ニシテ諸ノ辛苦ヲウケテ今世ニホトコサスハ後世ニタ貧
 ナラシト決セリ貧々相續セ共得脱ノ期ナカラシ故ニ今
 貧窮ヲミヌカレト欲ス是ヲ以金ヲ衆僧ニホトコスナリ大
 官元是五戒ノ清信士ニシテ佛法ヲ信スルコト深重ナリヨテ
 畫師カ語ヲキイテ讚フ云勤若ノ少物ヲ得コトクノ僧ニ
 ホトコス汝ハ是善人ナリト云テ即身ノ瓔珞ヲヌキ及所乘ノ
 馬等ニイタルマテコトク畫師ニタマハリヌト
智度論ニ見エタリ是ヲ以
 撥スルニ布施ノ華報ステニシカナリ果報ニコトマテタカラシモノヲマ
 有出言和睦九
 和睦トハ和ハ説文ニ相應也廣韻ニ順也諧也中庸發而皆中
 節謂之和矣睦ハ説文ニ目順也廣韻ニ親也矣孝經民用和睦
 上下無怨矣朱氏云和和協也睦親睦也矣今云トコノ和

狀六

和睦
各義

睦ハ言語ノ和協親睦ナリ爰ニ知又調和聲柔軟聲等ハ是
 佛ハ音聲ノ隨ナリ或ハ聞者悅樂ニ聽者無厭等是菩
 薩五音聲ノ其一ツナリサハ佛菩薩和顏愛語シテ衆生利益
 シモフコト是又四攝ノ一ツナリ如是語言ヲナシモフコト萬行ノ所
 因ヨリヲユル
 今流轉ノ凡身一旦柔和ノ言語ヲイタセニ似ナリ
 トイヘトモ舌端ニナラ骨アリサレハ古人ノ語ニ言下暗生消骨火咲
 中偷銳刺人刀矣又云紅顏含咲脚內提三毒之劍芝蘭芳言
 心中放十惡之箭矣是等ヲハ和睦ノ語言トハイハズレカレ九俗
 語言佛菩薩ニ及ストイヘトモ親疎ヘタテナク自他ヒトシク
 軟語愛言ニシテ常ニ物ニ忤ズ事ニフレテ害トナラサルヲ云ナリ
 釋智勤每處衆發言無不允睦トイヘリ允ハ信也肯
 也故ニ知又和睦允睦全ク同キモノナリ

冊七

語多
邪語
ノ弁

冊八

智勤
言語
和睦
多例

有發語棘刺

棘刺ハ棘ハ方言九草木刺入矣詩詁如棗而多刺木堅色赤刺殺也公羊傳刺之者殺之也矣增韻針刺也又棘芒也矣爰ニイフコ只言語一各發スル人ノ意ヲ棘ヲ以テ刺カ如レ世俗ニイハ元人ノ膽ニカハル語ナリトイヘル類ナリ鳥獸ノ聲スラ鶯ノ軒端ニ一聲ヲ轉リ郭公ノ雲井ニ千聲ニ揚鶯ト飛鳴人是ヲ聞テテガサム

鳥ノ惡聲九人是ラズ或トキ鳥鳩ニ謂テ曰卿人ニテ吾ヲクム吾ニサニ是ヨリ東ニ行ト欲スト鳩ノ云汝チ鳴コトヲアラタメカハス六東ニ行クトモマ東方ニテモ汝カ聲ヲニクマント

叢說ニ如是鳥類ノ上ニスラ惡聲ハ人ノニクムトコロナリ何ニイハシマ人事ニライテ惡口ノ語言ニコト二人ノ胸ニカハリ分リサスニ似タラシモノ人ノ愛スヘキニアラサル

卅九

鳥聲

人ニ云

上云述

有爲他愛敬

モノヲマ唯願クハ惡聲ヲマメテ柔和善順ノ語ニモトツケトナリ

四十

衆人

愛之

引文

四一

趙襄

趙盾

事狀

四二

李燮

清節

衆人ニ愛敬セラレ、事五種ノ宿善カニヨルト見エタリ法苑珠林云有五事得為尊貴衆人所愛敬何謂為五一施惠普廣二禮敬三寶及衆長者三忍辱無有瞋恚四柔和謙下五博聞經戒矣

龍傳文公七年鄆舒問於賈季曰趙襄趙盾孰賢對曰趙襄冬日之日也趙盾夏日之日也矣言ハ趙襄趙盾カ父ナリ父ノ趙襄ハ人トナリテ意溫和ニシテ冬ノ日ノ暖カカ如ク人ニテ是ヲ愛敬ス子ノ趙盾ハ人トナリテ嚴肅ニシテ夏ノ日ノイラヒトク暑カ如ク人ニテ畏避トナリ

又李燮ト云モノ其意イサキヨクニサホニシテ忠良ヲ執行ノ故ニ夷民愛敬ノ歌ヲ多クテ云思如春威如虎愛如母訓如父矣

如是世人致敬スルト

四三 人所 變由 宿善 述

止一端ノ義ニアラス宿植ノ報謝ナランモノヲマ佛弥勒告云ク
 東方ニ佛アリ無障身王如來トナツク此佛ノ三モトニ菩薩
 アリキ成佛シテ佛刹相王如來トナツク彼無障得王如來國
 土ノ東方ニ一佛アリ一切莊嚴無垢光如來トイフ南西北方
 羅上下各一佛刹土アリ若正信ノ善男子善女人アツテ此十
 ニノ諸佛ノ名号ヲ称セシモノハ一切ノ諸罪ヲ消滅シ阿耨菩
 提ヲ行シ然ノ後端正可善ノ果報ヲ得テ其トキ佛偈ヲ説
 云若有善男子若有善女人受持此佛名得他人愛敬光明
 威力大生處為人尊於後得成佛十二佛名經ニ佛ノ至ハク前生ニ
 ライテ一ニ殺生セス二ニ偷盜セス三ニ他人ノ婦女ヲ愛セス四ニ
 妄語兩舌セス此四戒ヲ持セシ人ハ今世ニ他ノタメニ愛敬セラレ
 後世ニ天上ニ生スト六向拜經ニ或ハ法藏二人天致敬ノ願アリ

四四 陽由 暴虐 四五 靈公 無道

是ハコレ現報ノ益ナリ 有衆人遠避

今此一箇次上ノ一句ニ對シ見ルトキハ前生ニライテ諸佛ノ名
 号ヲ称セス四戒ヲタモタサルモノ今更ニ衆人ニ疎隔スル或ハ一
 且在位ノ君子アレハ其威ニシテ、キ權門ニ集居トイヘトモ心ニ遠
 避セラル、モノアリ **前漢ノ陽由景帝ノトキニ郡守** 郡奉行ト
 ナレリ武帝立二千石ノ中ニシテ最モ暴酷ヲナシテホシイマ、
 ナリ故ニ吾愛スルところノモノヲハ法ヲマケ義ヲソムキテ是ヲ取
 立吾憎トコロノモノヲハ理ヲタカヘテ是ヲ滅漢書ニ **晉ノ靈**
 公不君ナリ日久クホシイマ、ニシテコリテ不善ノ事ヲコナハリ一ハ
 人ヲシテ熊ノ掌ヲ煮サレタムルニイマタ熱セサレハ急ニ食セント欲メ
 宰人料理ヲ殺シテハリ二ハ大夫趙盾忠言ヲ以直諫異見スレハ

四六

紂王 不君

用スシテ還テ是ヲ殺シトシ玉フニ三六群臣正朝ニマニエシムル彈丸ヲ
 遊ト云ラナシテ君臣ノ禮ヲウシナヘリ四六諸侯正朝ニ美人ヲ
 使フニテ裸形ニシテ殿前ニ出ス群臣是ヲ見テ走避テ大ニ笑ト
 イヘリ千字文註ニ又殷ノ紂王無道ヲラコナヘルコトハタ多クコトニ
 姐巳ト云美人ヲ寵愛シ殘義損善コトニ夏ノ桀王ヨリハスキナリ
 サレハ洲鬻ヲ行トシテ六銅ノ柱ニ油ヲヌリ炭ノ火ヲラコシテ其上ニ銅ノ
 柱ヲラキテ罪人ヲ是ニヨラシムルハ油ニスメリテタチニ火中ニキイリス
 如是醜虐ノセムヲナシテ面白キ事トシテ姐巳トモニ是ヲ見テチ弁
 マリ是ヲ施烙ノ刑ト云ナリ此刑罰ヲウクルモノハ忠良賢人ノ
 臣アツテ紂王ノ無道ヲイサマラシ者ヲ云ナリ爰爰イハレテ焚燒忠
 良云ナリ又或トキ紂王姐巳ト樓上ニホリテニリノ年少ノモノ
 冬月ニ河ヲワタルヲ見玉フニ姐巳紂王ニ謂曰前ニアツテワタルハ

少女ノ生子ナリ脛ノ髓ノ中充實ニシテ寒ヲ能コラウルニタニ
 故ニ水ヲ渡ルコトヤスレ後ニ渡ル老女ノタガ子ナリ脛ノ髓ノ中
 ヲツテ寒ニタエカタレ故ニ川ヲワタルニ難シ大王若ウタカヒタニハニ
 少年ノ脛ヲサキテ見玉ヘト王遂ニ呼テ二人ノ脛ヲサイテ見玉フニ
 果シテイヘルカコトシ又或トキ浮婦樹下ニ息息イハレテテニサニ起行ヲ見テ
 姐巳カ云此婦人ノ胎子男子ナラント紂王云ク何ヲ以ノ故ニ是
 男子ナルコトヲシルヤ姐巳カ云孕婦タチ行ヲ見ルニ先ツ尤ノ足ヲ
 是ハコレ定テ男子ナルコトヲ大王今試ニ腹内ヲ割見玉トヨツテ
 紂王彼ヲヨシテ腹ヲサキ子ヲイタシ見玉フニ果ノ姐巳カイヘルカトシ
 如是紂王ノ無道ナルコト數ニ及フヨツテ比干比干イハレテ是ヲ諫コトエタビ也
 姐巳又紂王ニ謂テ云妾妾イハレテキク上聖ノ人ハ心ニ九ノ竅アツテ孔ニ
 九ノ毛アリ中聖ノ人ハ心ニ七ノ竅アツテ孔ニ七ノ毛アリ下聖ノ

人ハ心ニ五ノ竅アツテ孔ニ五ノ毛アリ今比干カコトキハ是中
 聖ノモノナリ大王モシ信シ玉ハスハ比干カ心ヲサキ見玉ヘト其
 言ノコトク紂王比干カ心ヲ割見玉フニ心ニ七竅アツテ竅七
 毛アリ爰ヲ論語ニ比干諫而死ト云サテ箕子微子ニ臣ハ
 是ヲ見テ遠避行テ西ノカタ周ニツカヘシトナリ尚書泰誓上故ニ
 泰誓下篇云獨夫受紂王ノ洪作威乃女世雎矣此即紂王ハ
 暴虐無道ノ君タル故ニ諫言スルモノナク天下ノ人民ニ陳懼ニ
 唯獨身ノ如ナル故ニ獨夫ノ君ト云ナリ又秦ノ始皇帝阿房宮ヲ
 夕テ、ヅリヲキメ人民ヲ丸シメ書ヲ燒儒ヲ坑ニシテ無道ヲ行レ
 コト甚多故ニ天下ヲ治ナリトイヘ老人民思付サル故ニ是又ソレナリ獨
 夫ノ心ト云ナリ如是類ニテ衆人ニ遠避セラレ、人ト云ナリ

有慈心養命

修公 慈愛

夫彫慈悲ハ俗儒ノヲシテ上ヨロ慈心不殺ハ佛教スル上ヨロ
 ナリ今還テ教戒ニシムキ遺語ヲワスレテ生命ヲソコヒ人民ヲ
 クルシムルコト儒釋是ヲイハシムルニアリ **秦**ノ穆公駿馬ヲ失リ
 五人ノ盜アツテ是ヲ殺シ食フ事ステニアラハレテ五人ノ盜ヲ
 收捕テ穆公ノ前ニ出ス有奉詞ステニ死刑ニ行シトスヘキト云テ穆
 公還テ至ク駿馬ニ毒アリ汝等ニサニ死スヘシ即藥酒ヲ多クテ
 此酒ヲノミテ馬肉ノ毒ヲ解ヨトノ玉ヒテ遂ニ五人ノモノヲ放シ五
 人死ヲノカレテ過テテアヲタメテ自念スラク唯穆公ノ厚恩ヲ報セ
 事ヲノミテモヘリ後ニ秦ト晉ト戰事アリキステニ秦ノ軍アマタ
 見エトキ五人ノモノイテ、身命ヲラシムズ穆公ノサキカケシテ大
 晉軍ヲマフル穆公ノイハタ君ハ是誰人ソヤト五人答テ云臣五人ハ
 分シ大王ノ馬ヲ盜殺ノ食ヘルモノナリ事ステニアラハレテ死罪ニ

處せられへキヲ還テ大王臣ニ酒ヲ夕々分リテ臣等カ命ヲ元シ
 玉ヘルモノナリ爰ヲ以アマチヲアラタメカヘテ後盜ヲセス唯大王
 大恩ヲ報せし事ヲノミ思フ今ステニ秦ノ軍敗ニテ欲ス因テ五人
 命ヲラシメタカヒテ晉ノ軍ヲホロホシ大王ノ恩ヲ報せしトナリ
 穆公傳^{出タリ}此即穆公ノ仁慈陰德ニアツテ陽報サタカニ得玉ヘルノ
 謂ナリ何況マ佛教ノ所制慈心ニシテ生命ヲヤシナラ第下
 佛ノ玉多若シ食ヲ得トキニ是念ヲナスヘシ渴乏ノ衆生ヲ見
 一分ヲ以是ニホトコサニ我ハ施主トナリ彼ハ受者トナラシ施シ
 フハリテ此願念ヲナセ一切衆生ヲシテ福ヲフコシテ是ヲ救
 レン堅貪ニ墮スルコトナケシ又殘食ヲハ持ノ空閑ノ處ニ至テ
 一段ヲ減ノ淨石ノ上ニシキ諸ノ禽獸ニホトコセサテ殘ル一分ヲ自
 正ク食セ下欲スルトキ此念言ヲナセ謂ク身ノ中ニ八萬戸ノ虫アリ

四人

所受
食ニ
分多
分別

今吾食スルトコロノ食ヲ得テ皆コトクク安穩ナラニ我今食ラ
 以此諸ノ虫ニ施ス吾後ニ佛道ヲ得トキ正ニ法ヲ以汝等諸虫ニ
 ホトコスヘシト是ヲ不捨衆生ト云ナリ 十二頭陀經ニ
見エタリ

有殺生無比

夫精靈ノヲモニスルトコロ命寶第一ナリ故ニ如來ノ設教專ラ仁
 慈ヲ貴シトス菩薩ノ禁戒ヒトハニ殺生ヲラモシトスルカニ衆生
 來報ノ善惡ヲシラス我身ニ愛戀ノ他ノ生命ヲコロシテ軀
 命ヲマシナラ **陳ノ瘦季孫性ハナハタ殺生ヲコノメリ因テ山**
 河ニ漁獵スルコトヲ以常ノ業トシテ口味ニアテヤシナラ常ニ大ニ
 病^ス或トキ夢ニラク入アツテ季孫ニ謂テ云汝若能^ク此殺生ノ
 業ヲヤメハ病瘥ヘシトシカラスハ死セシコト必セリト即季孫夢
 中ニライテ再^ヒ殺生スニシキト誓フサテ夢サメテ汗ヲナカシ

四九

季孫
殺業
不正
迷

因果經卷四

二十二

身ヲウララレ病漸ク差^ス其後數年アツテ二門生アリ其二入ノ
妻ヲヌスミテ逃走又即^ラ追尋^テ子テ殺^ス其夜ニ前ノ夢中ノ神人ノ
來^ル見^ル李孫ニ向テ謂テ云汝ナシノ夢中ノ誓詞ニソムキテ此人
罪ナキニ殺スマ今汝カ罪濟^スヘキ理ナレトサテ夢覺^キ夜明ヌ^ル血ヲ
ハキ數日ニシテ死スト^{其祥記ニ}是神人ノ告ヲウクルトイヘトモ殺生
無比ナル故ニ又殺生セシ人ナリ云云

有寬而得衆

曰若イフニ王侯大人群衆ヲ得ルトイヘトモ其中ニ寬裕愛憐ニシテ
集^ルアリ或ハ其心^口共^クシテ酷烈ナリトイヘトモ俸禄ヲ得^ルタメニ
官門ニ候スルモアリ或ハ盜跖幕下^ノ將軍^ノ官ニアツテ軍衆集^ル
イヘトモ其權勢ニシテ衆ヲ得^ルタムモアリ是ハコレ寬大ニシテ衆ヲ
ウ^ル人ニアラス^{漢ノ高祖ハ}モト楚ノ懷王ノ臣下ナリトキニ準

五十

漢高祖寬仁大度事

隆龍ノ類ニシテ須髯ウルハレク龍ノ股ニ七十二ノ黒子^{アリ}寬祐
仁恕ニシテレカモ人ヲ愛^シ意豁^如トヒロク常ニ大度アツテ家人ノ
生産作業ヲコトセス故ニ秦滅^テヨリ天下コトクク漢祖ニ版ノ
高祖ヨリコカク献帝ニイタルニテ前後漢合テ四百九年天
下ノ治タルモ高祖ノ寬仁大度ニシテ能ク人ヲ愛^セ故ナリト^{前漢}
書本記^ニ賈誼云齊有孟嘗趙有平原楚有春申魏有信陵此
見^ニタリ四君者皆明智而忠信寬厚而愛人尊賢而重士矣孟嘗君
天下任俠ノ^女人ヲ^子キアツメテ其家ノ産業ヲステ^{厚ク}是
モノニ禄物ヲアタフ故ニ天下ノ士ヲカタクヨツテ食客數千
人アリアルトキ孟嘗君客ヲ待^テ夜ル食スルトキニ其食ヒトシテ
シテ差別ナレ一人アリ火光ノカケニアリ故ニ彼カトコロニ食
ヒトシクイタラス因テ客イカリテ飯ヲタマハルニ我ニヒトシ

五一

孟嘗君傳

五二

平原君傳

カラスト思フテ其食ヲクラハスレテカヘル孟嘗自起其飯ヲ
 持テヒトシテアタエテ差別ナレ客是ヲキイテ慙テ自首
 死ス爰ヲ以衆人孟嘗君ニ飯伏スルモノ兮々ヲホレ平原
 君カ家ノ樓民家ニソメリトキニ民家ニ躓タルモノアリテ
 撒ト行テ水汲モノアリ平原君カ美人樓上ヨリ是ヲ見テ
 大ニ笑フ明日躓タルモノ平原君カ門ニイタリテ云我レ君カ
 士ヲコムヲ聞クニ千里ヲ遠ニトセシテ來至スルハ君能ク
 貴ニテ妾ヲ賤スルニナリ我今不幸ニシテ躓タルノ病アリシカルヲ
 君カ宮人我ヲ笑フ願クハ臣ヲ笑フモノク頭ヲ得ト云平原君
 笑テ應云諾ト躓タルモノ去リヌトキニ平原君笑テ曰此躓タル
 モノヲミルニ後宮一タビ笑タル故ヲ以吾美人ヲ殺セト云コトニ
 ハナタシカラスト終ニコロサスサテ居コト一歳アリアツテ賓客

門下漸々ニ引去コトステニ過半ニシヨベリ平原君是ヲアヤシテ
 云我諸君ヲ待ニヘシモノイマタ曾其禮ヲ失セシカルヲ去モ
 多コトハ何事ソヤト門下ノモノ一人進イテ云君躓タルモノヲ
 笑ル宮人ヲ殺シ去ハカルニヘヲ以君色ヲ愛シテ士ヲ賤スルニナリト
 爰ヲ以平原君彼美人ノ頭ヲ斬テ躓タルモノノ門ニライテ謝ス其
 後々賓客來コトモトノコトシ乃々食客三千人ニシヨベリ春申
 君信陸君イツレモ食客三千餘人ノ衆ヲ得タルトナリ
 此四君元是寛祐ニシテ衆人ヲ得タルモノナリ
 有爲他所棄

史記列傳ニ見エタリ

問上ノ衆人ニ遠避セラルト今此一箇ト何ノ別アルマ答上ハ約王
 始皇帝等ノコトク衆人退去ナリ例共著婆月光ノニ大臣閣王ニ
 對ノ曰閣王今此殺逆ヲナシ去ハ、刹利種ヲ汚シ臣聞ニタス

五三

棄老國

是梅陀羅^{サニタラ}ナリ我等諸臣此宮中ニ住スヘカラス遠他國ニ避
 去ルヘトイヘル類ナリ今コノ意ハシカラス唯人^{ヒト}九^ク性^{セウ}鄙^{ヒツ}シテ
 入門戸ヲ閉^トテキラヘルモアリ或ハ邪見無智ニシテ人^{ヒト}是^{コト}ト交^カラ
 絶^{ツク}モアリ或ハ乞^カ巧^ク孤獨ニシテ人^{ヒト}是^{コト}ヲイフセク思^シヒ四衢^{シヨク}ニ
 ステラルモアリ或ハ棄老國ハ諸ノ老人ヲハ山ニスツルモアリ是
 即今ノコロナリ久遠劫ニ國アリ棄老國ト云彼國法トシテ
 老人アレハ昔山ニ驅^ク棄^シナリ一^{ヒト}ノ大臣アリ其父年老又國ノ法令ニ
 隨^{ツク}ハ老親ヲ山ニスツベシカ^ルニ大臣孝順ニシテ親ヲスツルニシ^ルビズ
 密^ニ深^ク穴ヲホリテ其中ニ父ヲキテシノヒマカニ是ヲ孝^ノ類^ス其
 トキ天神アツテニ蛇ヲ持^チ來^リテ王ノ殿上ニライテ云^フ若此^ノ繼^リ
 雄^ヲワカチタマハ汝カ國安穩ナラン若是ヲ別^ズスハ汝カ國七日
 後^ニ七^トトキニ王是ヲ聞^テ懊^ハ懼^ハヲイタキ諸臣ニ命^シ是ヲカ

シムル一人トシテ別得ス彼孝臣家ニカヘリテ穴中ノ父ニ問^フ父^ノ
 曰^ク此事別^チダシ細軟ナルモノヲ以蛇^ヲトメテ其上ニ^ラケ其^ノ躑^ヲ躑^ヲ
 ナルモノ雄ナリ住^ノウコカカルモノハ雌ナリ孝臣行^テ其^ノ言^ヲ
 如^クス果^シ雌雄ヲ別^テリ天神マタ問^フ大白象幾^ク斤^ニ兩^カ
 アルト又大臣父ニ問^フ父ノ曰象ヲ船上ニ^ラキ太池ノ中ニ^ラカヘテ
 船^ニ刻^シラシテ後^チ船^ニ石^ヲツツニテ其^ノ斤^ヲ兩^ヲシレト大臣其^ノ言^ヲ
 コトクス又問^フ一^ト掬^ノノ水ヲ以大海ヨリ多^クト誰^キ能^ク是^ヲシル大臣
 父ニ問^フ父カ云若人信心清淨^ラ一^ト掬^ノノ水ヲ以佛僧ヲヨヒ父
 母又ハ困窮^ノ病人ニホトコス此功德ヲ以福ヲウルコトキ^ハリナシ
 爰^ラ以^テ一^ト掬^ノノ水ハ大海水ヨリ多^クト此言ヲ以天神ニ答^フ又
 問^フニ^ツ白^キ驎^ハ馬^ハノ毛色同^クヲ以何^ヲカ母トシ何^ヲカ子トセント大
 臣父ニ問^フ父ノ云草ヲアタヘテ食^ハシムルニ母ハ必^ズ子ニ^シテ

草ヲ子ニアタヘント果ノイフトコロノコトシ又問一ツ梅檀ヲ証等ニケツリテ鍵ノ柄ノコトクシテ何方頭ナルト臣又父ニ問父ノ云是ヲ水ニ入テ見ヨ根ハカナラス没ニ尾ハカナラス舉ト是ヲ以天神ニ答フ即天神大ニ歡喜ノ王ニ珍寶ヲククリテ云汝カ國我ニ守護スヘシト王大ニヨロビ孝臣ニ問テ云是汝カカナリ臣答云是臣カ智力ニアラス朕無畏ヲユシモハ具ニ陳ト王ノモク汝万死ノ罪アリトモユサレハシマ小罪ニライテヲマ臣カ云王ノ制令老ヲ養フコトヲユサス臣ニ老父アリ王令ヲカシテ穴中ニカクシヲキ又臣カ答ヘニテ父ノヲシテト王キイテ大ニヨロビ其ヨリ老多ク山ニステス還テ老タルヲハ養ト云テ棄老國ヲアラタメテ養老國トナシモヘルトナリ謙寶藏經ニ是始ハ老人ヲ山野ニステラル事多キ然トモ後ニ孝心天ニ感ノ老父ヲ養トイヘリ

有婦姑相憎

婦ハ媳婦ナリ字彙曰俗謂子婦爲媳矣韻會云子之妻曰婦矣陳氏云夫之母曰姑禮記ニハ元婦事舅姑如事父母是即古今ノ常徳ナリレカルヲ還テ禮ヲウシテニ義ヲタカヒテ婦姑勃磔スト云テ婦姑ノ中ヨカラス何ニ況マ其身貧賤ニシテ窄小ノ家ニシテ婦姑常ニ面前ニアレハ其アラソヒマ多サレハ懶婦ナルアツテ機ヲ織テ業トス常ニ機ノ上ニシテ子フルトキニ姑ニラミヲナシ杼ヲ以婦ノ背ヲ打ッステニ死ニイタル背ニ杼ノ痕アリ則化ノ獸トナリテハシリ去スト寰宇記ニ又隋ノ大業中ニ河南ノ人ノ婦アツテ姑ヲ養フテイタリテ不孝ナリトキニ姑兩目トモニ盲タリ婦アルトキ蚯蚓ヲ煮テ是ヲ食シム姑其味常ニ異ナルコトヲアマシテ竊ニ一ノ齧ヲカクシヲキ我兒ニ示ス兒是ヲ見テ大ニ驚

五四

婦姑

五五

婦姑

事

婦ヲ送カス其婦イマタ父母ノ家ニカハリイタラサル中途ニテ
 風雨雷電ノ黒雲下リ東西ヲワキマヘサルニ忽ニ其婦ツツテ
 シハラクアツテ婦空ヨリ落ツ見ニ身モ衣類モ旧ノコトクニシテ
 唯其頭ハカリ替テ白狗ノ頭トナリ又言語サラニ常ニタカハス則
 夫ニ回テ云我姑ニ不孝ナルヲ以テ故ニ天神ノタメニ刑罰せラレテ
 角現報ヲ受タリト云トキニ夫即將テ官吏ノモトニテ官人
 刑戮ヲ加ヘ其後市中ニステラレヌレハ街衢ニアツテ乞食シ其
 耻ヲサラシツ井ニ其ヲハルトコロヲシラサリキト 冥報記ニ見エタリ 宋
 刑州ノ李生ト云モノ性トシテ父母ニ至孝ナリ母年漸々ケテ目
 盲又李生外ニ出毎ニ再三其妻ニ謂テ云好老母ヲ以保シ養
 育セヨト妻ノ金氏夫ノ言ニタカヒ或トキ夫他行セシ留主ニ養
 ツカヘルノ禮ヲナサス焼餅ヲ以姑ニ進トシケルカ我兒ノ糞尿地ニ

五六

婦姑 不孝 左述

アルヲ見テ少ハカリヲ取テ餅ノ中ニ入テ献姑是ヲ食ニ糞ノカホリ
 アツテ食ヘキニタエスヒツカニ是ヲカクシヲキ子ノ李生他所ヨリ去リシ
 是ヲ見セカタル李生大ニイカリテ杖ヲ提テ婦ヲ打婦即令リテ
 逃テ關王ノ廟ノ中ニカクレ入ル李生跡ヨリ逐テ廟中ニ入テ尋
 モトムルニ見エス唯一ツノ狗アツテ案ノ下ニ伏居テ瞬目シテアヘテ
 近ス李生問金氏カ父母ヲ呼此狗ヲ見セシム狗泪ヲナカシテ
 父母ニ向云我不孝ニシテ糞穢ヲ以姑ニ食シヌシ過ニヨツテ
 今忽チニ變ノ狗トナルト此事ヲ聞テ遠近來見ルモノハナハタ
 多シサテ十日エリシテ此狗死スト 感應篇ニ見エタリ ニテ是婦姑相惡
 謂ナリ

有妯娌歡戲

妯娌ハアヒヨメト訓ス余雅云關西兄弟之妻相呼為妯娌矣

五七

蕪秦

妻嫂

同居

述

姜肱 兄弟 六人 不離 述

歡ハ歡樂戯ハ遊戯ナリ謂ハ妯娒ハ多ク是異姓他族ノモノナリ
 何ニ况マ女ハ是嫉妬ノ情ヲカク疑細ホトト多シ是故ニ其家ヲ
 守ルコトヲ失ヒ義ヲタスニ道ナシ今歡樂遊戯ノミシカリヲナス
 真ニ九哉潜ニ是ヲ思フ聖人交友ノ先逃ナラシモノヲヤ **昔蕪**
 秦トイル人鬼谷先生ノモトニ行テ學セシ學未熟ニシテ **惟粹**ト
 カレケテ故郷ニカヘル嫂ト秦カ妻ト妯娒トモニ家ニ居テ秦ヲ
 見テ學ヲ成セシテカヘルコトヲ思ヒテ目ヲ側テアヘテ蕪
 秦ヲ見ス妻ハ機ヨリヲリス嫂ハ飯ヲ不炊イヘルモ妯娒交情ノ
 歡戯ナル謂歎 **姜肱**ト云モノ兄弟六人アリタカヒニ相憐
 愛ノ分離スル事ヲセス兄弟各妻房アリ兄弟妯娒同 **并**
 居食夜ハ即被ヲ同ノ臥出則衣ヲカヘテ出ナリ **姜肱傳**ニ是
 即兄弟妯娒タカヒニ歡樂遊戯ノ會合タルモノナリ

有信聽法語

五九

妙法

德義

六十一 華氏 國白 象聞 法功 薰

信ハ樂也集韻作喜或省作喜矣 **法語**トハ妙法ノ語言ナリ
 即佛ノ法寶ナリ今此妙法ト云ハ一切衆生三界生死ノ大海ヲ
 渡ラシ欲共妙法ヲ **渡**トシテ正ニワタルコトヲ得ヨサレハ法ハ是
 煩惱ノ熱ヲサマヌノ清涼病ヲイマスノ妙藥ナリレカルニ衆生ノ
 志性 **莊**トシテサタミラス **輕**トシテコトクウツル善ニカツケハ
 善人トナリ惡ニカツケハ惡人トナル故ニ揚子法言云人之性也
 善惡混修其善則為善人修其惡則為惡人矣又云 **驥**之馬
 亦驥之乘也 **駑**之人亦驢之徒也矣故ニ此法語ヲ聞テ善
 性ニモトツキ三界ヲハナレシト唯人ノマ子クトコロナリ **華**
 氏國ノ王ニツク白象アリ能怨敵ヲホロホス若人罪アレハ此白
 象ノ厩ノ中ニラクニ忽ニ踏殺ス後ノトキニ象ノ厩火ノタメニ燒ヌ

今レハ寺ノホトリニ近ツキツナキヲキヌトキニ象比丘ノ法句經ノ為善生天。為惡入淵ト云偈ヲ誦スルヲ聞テ象心即柔和ニ慈悲ノ心ヲユセリサテ罪人アリ象ノホトリニヨセヌル象々鼻ヲ以カキ古ヲ以舐テスベテ踏殺サントスルノコトヲ王是ヲ見テ大ニ惶怖シ諸臣ヲ呼テ此事ヲ評議ストキニ智臣アツテ王ニ白言此象寺ニ近キ妙法ヲ聞故ニシカアルノ三今又屠肆ノ處ニウツシキカツテツナキ玉ヘト王即智臣ノ言ヲコトクシ玉ヘ象心猛烈ニシテ罪人ヲフミ殺コト又前ニスクレタリ畜類ステニルナリ況マ人品ニライテ妙法ヲ聞事ヲツト弁テマ付法藏經ニサレハ假ニ妙法ヲ聞スラ善縁ヲムスフ爰ニ知宿世見エタリ諸佛ヲ見タテマツリ清淨ニ戒ヲ持テ人ニアラスニ何ソコニテ法語ヲ聞コトヲ得マサレハ念佛三昧經ニハソコノ如來ノ言トシテ

諸ノ善根ヲ種アツク功德ヲ集メ人此三昧王ノ名字ノ少分ヲ聞事ヲウルトイヘリ

有聞經眠睡

眠睡トハ五情闇冥ナルヲ眠ト云意識昏熟スルヲ睡ト云若人無記心ニアルトキハ無明ヲ增長ス故ニ意識昏々トシ熟シ五情闇冥ニシテ覺知スルトコトナレ此即懈怠懶惰ニノ五蓋ノ隨一菩薩衆行ノ累トスルコトナリ爰ヲ以眠睡退惰ノモノハ無量ノ劫數ヲ經トイヘトモ清淨ノ善心ヲ開發スル事ナクノ苦提ニシモムクノ道ニ迷フ昔佛無央數ノ大衆ノ多ニ說法シテ一ノ長老比丘アリ世尊ニ向テ足ヲノヘテ眠ル一ノ修摩那沙弥アリ年ステニハ歳ナリ世尊ヲ去コト遠カラステ結跏趺坐シ法ヲ繫念シテ前ニアリ世尊ハカニ長老比丘足ヲノヘテ眠ヲ見亦沙弥端

六
睡眠
比丘
并思
惟沙
弥

六二 德樂 止睡 眠

坐思惟スルヲ見テ諸ノ比丘ニ告テノモク汝等此長老足ラ人テ
子フルヲ見ヤ諸ノ比丘對テ云悉見ナリト云世尊ノ云此長老比丘
前五百世ノ中ニ恒ニ龍身タリ今モレ命終セ共又竜ノ中ニ生スシ
然ニハ佛法ヲ恭敬スルコトナキ故ナリ又汝等修摩那沙弥年
八歳ニシテ我ヲ去コト遠カラス端坐思惟スルヲ見ヤ諸比丘云悉
見ナリト世尊ノ云此沙弥七日スキテ後四神足ヲ得四諦ノ
法ヲ得ヘシト何ヲ以故ニ恒ニ勤ハケマシテ佛法衆ヲ恭敬シ經
法ヲ聞ル故ナリト 增一阿含經ニ 過去無數劫ニ佛出世アリ一
切度玉トナク衆中ニ比丘アリ一ツハ精進弁ト云一ツハ德樂
止ト云共ニ法ヲ聽ク精進弁ハ經ヲ聞テ歡喜シ時ニ應ノ即不
退轉位ヲ得テ神通具足ス德樂止ハ眠睡ノ經ヲ不聞不覺ニメ
獨所得ナレトキニ精進弁德樂止ニ謂テ云佛ニ遇カクニ正勤

精進ノ諸ノ善本ヲナスベシ汝何眠睡ノ經法ヲ聞サルヤト德樂
止其教訶ヲ聞テ祇樹ノ間ヲアリキニステニ住ノ睡眠シテサヌス又
泉ノホトリニ坐シテ思惟セント欲スルニ又子ガリ生ノ思惟スルコト
アタハス時ニ精進弁善巧方便ヲメラシテ德樂止ヲ化度セント
欲ノ忽ニ化ノ蜂トナリ飛テ德樂止ノトヨニ行テ葉トス德樂止
驚キ子ガリサヌテ此蜂ヲソル又須臾ノ間ニ子ガル又蜂飛テ德
樂止ノ腋ノ下ニ人テサヌ德樂止驚テアヘテ子ムラストキ泉水
中ニ雜色ノ華アリ蜂飛イタリテ華ノ上ニアツテ甘露味ヲ吸
德樂止是ヲ見テ蜂ノ飛來テサニコトヲソレテ子ムラスト此
トキニ蜂德樂止ニ向テ偈ヲ説モテ德樂止其偈説ヲキイテ
眠睡ノ聞經セサル事ヲリ忽ニ不起法忍ヲ得タリト 六度集經ニ
真ナル哉聞經ト不聞經トハ天淵ハルカニ隔タルモノヲ唯望ラカ

睡眠ニシカサレ聞經スルニ不足無二ノ穢罪ヲハケマシ法會ノ
場ニシクニ聞經アラス事法財ノ最第一ナルニ
有武夫無禮

武夫トハ尤傳先軫云武夫力而拘諸原矣韓退之云武夫前
呵從者塞途矣武ハ楚莊王曰夫武定功戰兵故止戈為武增
韻威也勇也剛也角力也矣夫ハ丈夫ナリ周制八寸為尺十
尺為丈人長八尺故曰丈夫矣即男子ノ通稱ナリ今武夫武
士トモニモノフト訓ス勇力ノ兵士ヲサスナリ無禮トハ君子キラス
トコロナリ論語云子貢云君子亦有惡乎子曰有惡惡称人之
惡者惡居下流而訕上者惡勇而無禮者惡果敢而窒者矣
朱氏云勇無禮則乱矣
サレハ齊ニ公孫接ト田開強ト古冶
子ト三人各勇武ニシテ無禮ナルモノナリ晏子是ヲキラヒ去ト欲

六三

齊國
三勇

一ツ行ヲテテ三人ニ桃ニツラ餽テ云汝等ノ功ヲハカラヒテ食ト公
孫接ト田開強ト二人ハサテテ功薰チキ故ニ桃果ヲクムコトヲ
欲セズ古冶子カ云君河ヲ濟モフトキ鼉河中ヨリイテ晏子
駢ヲヒサケテ砥柱山ニ走人ヲ我ヒツカニ山ニ行テ鼉ヲトラヘ
得テ是ヲ殺シ尤ノ手ニ馬ノ尾ヲトリ右ノ手ニ大龜頭ヲ
挈テカヘル今我功ノコトクニハ此桃ヲ食ニ足ヘシトテ桃ヲ食
ト云公孫田開ノ二子ノ功古冶子ニシヨハシト云テ即自頸ハ子テ
死ス古冶モ亦自死セシトナリ
見エタリ
符堅カ從兄朗氏ハ
極テ驕ヲチ不遜無禮ノナルモノナリ江南ニ行テ客トサカモリセシ
トキニ唾壺ト云テ唾シテイル壺ヲ用コトモナク小兒ヲ呼テ跪カセ
ロシヤカセ其内ニ唾シテ小兒ノ口ニウケフクセテ外ニ出ステテ
コレノミナラス祢衡カ悖逆無禮李白カ乘醉無禮手是君名

六四
朗氏
不遜

六五

五戒
五常
同述

モノキラウトヨロ乱是ヨリ滋ク禍是ヨリラコル佛教ヲ元トヨロ
專ラ是ヲ思フコトコニアリ故ニ知又下ニ我等アリテ上ニ佛陀ヲ禮ス
正ノ是人道ノ初門トス
サレハ佛教ノ五戒儒教ノ五常内外
是異ナリトイヘトモ其意同破邪論云五戒斷殺盜淫妄語飲
酒與仁義禮智信同矣弘明集云仁者不殺之戒也義者不
盜之戒也禮者不邪之戒也智者不醉之戒也信者不安之
戒也矣今イフトコロノ無禮五常五戒ノ一ツカケタルニアラスヤ
故ニ知又儒釋是ヲニクムニアリ然レテ禮ナクシテ道ニスミシト云
コト此コトハリアルコトナシ可痛可惡

六六

學義
德義

有好學文義

文ハ能詮ノ經文義ハ所詮ノ義理ナリ今文義トモニ學ス人
事ノヨミスルトヨロ進道ノタスケタルモノナリサレハヨキ者アリトイヘ

六七

君子
三患
并學
行ノ
名義

六八

食ガ六其旨味ヲシラス至道アリトイヘトモ學セサレハ其
善ヲシラス禮學記タトヘハ手ノ中ニ錢ヲシテ市中ニ行キ貨
財ヲモトメシト欲スレトモ人ニ貨財ヲアタヘサルカコトク會中ニ
學ナキ人モ亦復如是論衡今世人アツテ學ノ肆ニイラスハ
菩提ノ道ニイタルコトカタシ雖レ然聞カコトク學シ學スルカ如
行スバ其徳スクナシ
家語云孔子曰君子有三患昧之聞患
不得聞既聞之患弗得學既得學之患弗能行矣サレハ君子タ
人ハ聞カコトク學ヒ學スルカコトク行フ是其望ムトヨロナリ故イハ元
文質彬々然トノ學セスバ是則空位ナリ塩鐵論云内無其
質而外學其文雖有賢師良友若畫脂鏤冰費日損功故良
師不能飾西子澤香不能加嫫母矣
ソノカニ釋支謙ハ
經籍ヲ學シ其文義精究セスト云コトナシ况ヤ世間ノ技能歌舞

兼綜字術

六九

法上睿智

兼綜スト云コトナシ其外異書六國ノ語言等ニイタルマテ兼
 通セスト云コトナシ漸ク人トナルニラヨシテ其身細長黒瘦眼ニ
 白多シテ目ノ珠ハ黄ナリ時ノ人ノ云支即ハ眼中黄ニ形細
 色黒トイヘトモ是智徳ナリトクシリアヘリト梁僧傳見エタリ又釋
 法上ハ五歳ニシテ學ニイル七日ニシテ諸章ニ通ス六歳ニシテ
 叔ニ隨テ寺中ニ行ニ遊戯歡樂ノナクサミアリ法上是ヲ見テ
 情ニ鼓吹歌舞ノ思ナク但佛前ニ向テ禮拜ヲナシ經ヲノミ讀
 其聲爽ニシテスクレタリ衆人奇異ヲナシハシリ集圍繞シテ
 觀聽ス年八歳ニイタリテ畧經文ヲ覽ヒロク其義理ヲツクス
 九歳ニシテ涅槃經ヲ得ヒライテ誦之即五濁惡世ヲ厭離
 ス心ヲ生シ十二歳ニホリテ禪師道藥ノ許ニ投テ出家ニ神
 氣高爽ニシテ詞論ヲテラシ曉故ニ人是ヲ推ノコトクク聖

七十

畜生名義異說

沙弥ト云唐僧傳ニ出タリ今引證スルトコロノ二驗コノシテ文義ヲ學
 スルノ人ナリ定知ヌ宿カノナサレムモノナラニ歟
 有作畜生之形種々異類下
 畜生トハ梵語ニハ底栗車此ニ畜生ト云謂ク畜ハ畜養生ハ
 衆生ナリ言ハ畜生ハ稟賦ノ性元ヨリ愚癡ニシテ自立スルコト
 アタハス他ノ衆生ニ畜養テ其身ヲ成立スル故ニ畜生ト云ナリ問
 鷄狗等ノ人家ニ馴住ノモノハ人ノ畜養ヲマテテ性ヲ成スルコト
 アルハ諸竜或ハ冰陸空行ノモノハコトキハ豈ニ人ノタニ養事ヲ得ヤ
 答養ト云ハ其義寬シ具ニハ人間ヲヨヒ六欲天ニ通シテ是アリ
 養ナルモノハ狹ク唯人中ノ山野澤内ニテリ或ハ云古昔ノ諸竜ハ
 人ノタニ養ル事アリトイヘリカアリトイヘトモ今畜生トイヘル
 名義ハ多クニテ人ニ養ル故ニ多分ニ約ノ他ノ衆生ニ養ルト

七一

畜生

三義

七二

大意

并細

釋

云ナリ又一義ニ云生モ畜生ノ生ナリ謂ク他ニ生ヲ養ハル故ニ
 畜生ト云ナリ又一義ニ云數類萬殊ニ生ヲ畜故ニ畜生ト云
 ナリ翻譯名義集云形分萬殊類徧五道矣トイハル是ナリ
 或ハ新婆娑論ニ底栗車此ニ旁生ト云又ハ旁行ト云是
 三義アリ一ニ形旁二ニ行旁三ニ心旁ナリ形旁ト云ハ猪鹿
 蝮等ノコトク形ナリ人狀ニ類セス又行トモ身ヲ覆テ行キ蝮
 蝮ノ横ニ這行ク是ヲ形旁行旁等ト云ナリ心旁ト云ハ増上ノ
 愚癡心身口意ノ惡行ヲ以ノ故ニ畜生道ニ隨フ心闇鈍ニシテ
 性々旁ナルヲ心旁ト云ナリ今畜生ノ種類ヲ判スニ其數繁
 多ナリ且ハラク樓炭經ノ說ニ云ニ畜生不同汰約有其三
 種一魚二鳥三獸於此三中一々無量魚有六千四百種鳥有
 四千五百種獸有二十四種矣於中大小ノ分別アリ魚ノ太

身ヲイハハ摩竭大魚ニスキタルハナレ身ノ長或ハ三百由旬四
 百由旬乃至極大ナルモノハ七百八百由旬ナリ眼ハ日月ノコトク
 鼻ハ大山ノコトク口ハ赤谷ノコトクトイヘリ獸ノ大身ハ竜ニスギ
 タルハナレ難陀跋難陀ノ二龍ハ其形極テ大ナリ須弥山ヲスル
 コト七形ニテ頭ハ須弥ノ頂ニアリ尾ハ海中ニアリトイヘリ鳥ノ
 大身ナルハ金翅鳥ニスキタルハナレ頭ト尾ト相去コト八千由旬
 ナリ高下モ亦八千由旬ナリ若其飛トキハ一須弥ヨリ一須
 弥ニイタルツ井ニ中止ト云コトヲセサルナリ俗書ニイハユル大
 鵬ト云鳥アリ其形極大ナリ背幾千里ト云コトヲシラス正飛ト
 欲スルトキハ水ニ繫コト三千里翼ハ垂天ノ雲ノコトシ扶遙上風
 勢ニ搏アカルコト九万里ニシテ正逝コトヲウル北溟ヨリ南溟ニ
 イタルコト一名飛テ行クコト六月ナリ其中ツ井ニ休ト云ト云

トイリ此則内教ニハ元小金翅鳥ナリ俗典アヤツテ金翅鳥ノ外ニ大鵬鳥アリトイヘリ又其極小ヲイハ俗情マロニハ元小鳥ノ極微ナルシ鷦鷯ノ鳥ニスキタルハナシ蚊ノ鬚ノ上ニ巢ラセ卵ヲナセリ其卵ヲスリテ蚊ノ鬚ノ上ニレテ乳ヲクニ世養フトイヘリサテ内教ノマロ衆生ノ受報極小ナルハ形微塵ノコトニレテ凡眼ノサラニ見サルモノナリ如是畜生ハ受報無量ニレテ其數多シ故ニ種々異類ト云ナリ故ニ正法念經云畜生無量畧説三處一者水行所謂魚等二者陸行所謂象等三者空行所謂鳥等或以天眼見諸畜生有四種生何等為四一者胎生所謂象馬牛羊之類二者卵生所謂蛇虺鴟鵂鷄鴉等衆鳥三者濕生所謂蚤蝨蟻子之類四者化生如長面龍等矣

問上人業ノ果報ヲ具問シ今畜類ノ一種ヲ畧問ス何ソ人畜二趣ヲ問テ餓

七三

人畜
赤舉
問答
次疑

鬼等ノ餘趣ヲハ問贖セサルヤ答フ今試ニ是ヲ解スルニ義アリニ畜生ノ一趣ハ六道通ノ是アリ故ニ餘趣ヲハ畜生ノ一趣ニ撮ノ舉ガナリ謂ク地獄ノ中ノコトキハ無足ノ畜類アリ娘吐蟲等ノコトシニ足ノモノアリ鐵嘴鳥等ノコトシ四足多足モノアリ鬼趣ノ中ノコトキハ無足ノモノアリ毒蛇等ノコトシニ足ノモノアリ鳥鷓等ノコトシ又四足多足ノモノアリ人趣ノ中ニハ目ヲレテ人ノシルトコロナリ天趣ノ中ニハ四王忉利ノコトキハニ足ノモノアリ妙色鳥等ノコトシ四足ノモノアリ象馬等ノコトシト云ニ今經ノ所詮專ラ人ニ對ノ善惡ノ因果ヲシメス事旁六趣ニ通ストイヘトモ餘趣ハ人ノ見サルトコロナリ故ニ所見ノ邊ニ約ノ人趣ニ相次テ畜趣ノ問ヲアクルナリ

○三六結文

七四

唯願世尊廣說因果大眾知聞一心從善

當經一代

唯願トハ餘縁ヲ斷異レテヒトニ善惡因果ヲ請求スノ詞ナリ廣說因果トハ此經ハ是一代所說ノ結經ナリ故何經ノ撮屬トモ定メサハ大小偏圓又定判シカタシサハ如來出世ノ

入文判釈ニ又三段ハ我我聞

一心靜聽 序分ハ 尔付阿雅

又序分六ッ 二ハ死

古昂 墮落 曰宗文 尔付アテヨリ 尔又畢 諸道

曰字又二同ニ答 同中 擲列結答 中 擲列結

大李孔之教行焉武皇容其小辯朝輔未能抗也時謂遵其邪
狂通廢宏衢莫不懼焉及下詔問云棄父母之鬚髮去君臣

七六

之章服利在何聞之中益在何情之外損益二宜請動妙釋琳
憤激傳詞側聽明教兼有此問即陳對曰琳聞至道絕言豈九
流能辨法身無象非十翼所詮但四趣茫茫漂淪欲海三界蠢
蠢顛隊邪山諸子迷以自焚凡夫溺而不出大聖為之興世聖
人所以降靈遂開解脫之門示以安穩之路矣 琳師ノイハ元

佛出 與因 果兩 字三 術

如來出興ノ本懷ヲ思フニ外道俗情ノ邪教三綱五常ノ道ナツニ
三世ニ因果ヲタテス三途ニ沉没シ六道ニ輪轉セシヲ憐愍ノ世ニ
至ヒ因果ノコトナリヲ説キモフ此即是經ノ所因一代諸經由致ナリ

佛父ニ 因果ヲ 七 術

悉達太子ノイニエ世ヲイトヒ出家學道セシタメニ檀特山ニ入
至ヒシテ父淨飯王二人ノ使ヲツカハシテ太子ヲ諫テ山ヨリカヘラ
シメント欲ノ偈ヲ説言ク棘刺頭尖是誰磨鳥獸雜色復誰畫
各隨其業展轉變世間無有造作人矣 尔時ニ悉達太子ニ入

七四

當經

一代

結經

名并

七五

琳師

儒道

論

唯願世尊廣說因果大衆知聞一心從善

唯願トハ餘縁ヲ斷異シテヒトニ善惡因果ヲ請求スルノ詞

ナリ廣說因果トハ此經ハ是一代所說ノ結經ナリ故何經ノ

撰屬トモ定メサハ大小偏圓又定判シカタシサハ如來出世ノ

本意ヲ討ニ一切衆生ニ善惡因果ノ理ヲシラシメテ涅槃無上ノ

理ニイタラシメカタメナリ

釋ノ法琳法師京師ノ濟法寺ニ住

職シモフトキニ武德四年ニイタリテ大史令傳奕ト云モノ是ヨリ

サキニ深ク佛法ヲ忌キラフ釋教ヲ廢退セシムルノ十一箇條ヲカキテ

武皇帝ニタテマツル其畧云釋經誕妄言妖事隱損國破家未聞

益世請胡佛邪教退還天竺凡是沙門放飯桑梓則家國堪

大李孔之教行焉武皇容其小辯朝輔未能抗也時謂遵其邪

狂通廢宏衢莫不懼焉乃下詔問云棄父母之鬚髮去君臣

之章服利在何聞之中益在何情之外損益二宜請動妙釋琳

憤激傳詞側聽明敕兼有此問即陳對曰琳聞至道絕言豈九

流能辨法身無象非十翼所詮但四趣茫茫漂淪欲海三界蠢

蠢顛墜邪山諸子迷以自焚凡夫溺而不出大聖為之興世聖

人所以降靈遂開解脫之門示以安穩之路矣

如來出興ノ本懷ヲ思フニ外道俗情ノ邪教三綱五常ノ道ヲツ

三世ニ因果ヲタテス三途ニ沉没シ六道ニ輪轉セシヲ憐愍ノ世

モト因果ノコトナリヲ説キモフ此即是經ノ所因一代諸經由致ナリ

悉達太子ノイニエ世ヲイトヒ出家學道セシタメニ檀特山ニ入

至ヒシヲ父淨飯王二人ノ使ヲツカハシテ太子ヲ諫テ山ヨリカハラ

シメント欲ノ偈ヲ説言ク棘刺頭尖是誰磨鳥獸雜色復誰畫

各隨其業展轉變世間無有造作人矣尔時ニ悉達太子ニ入

七六

佛出

與因

果兩

字三

術

佛父

因果

論

七八

使ニ向テ云ク父ノ王唯自然ノ理ヲ信フ因果ヲ信セス汝等還
 王ヲレテ因果ノ道理ヲ信セシメヨ我今出家學道セシムルコトモ一
 切ヲレテ自然ノ理ニシツムモノヲレテ因果ヲレラセシメヌナリト
 佛本行經ニ一心トハ上ニ唯願ト云ヒ下ニ又一心ト云ニ心ナキニ約ス唯疑
 見エタリ
 慮ナク因果ノ理ヲ請スルノ心ナリ
 愛ニイフ一心ハ賢首ノ一宗ニ
 判スト云ノ五教ノ一心此内ヲハイテス三藏法數云一心者一念
 之心也心性周徧虛徹靈通散之即應萬事斂之而成一念矣
 今此經ノ所判一代時教ノ中ニ何ノ教ノ攝屬トモ定メカズレ故ニ
 知又今此一心廣大小權實ノ法ニ通スルノ心ナリトシルベシ從
 善トハ因果撥無ノ邪惡ヲナレテ深信因果ノ正善ニシタカハ
 トナリ從ハ佛語隨從ノ義ナリ問佛イマテ發語シ玉又阿難大
 衆何ヲ推テ善ニシタカハト云ヤ
 答ステニ佛語ニ順從ス全是

今經 一心 五教 通判 多證

七九

從善 詞儒 釋ナ 意同 述

父子 天然 器示 ノ理

八十

正善ナリ古語云從善如登從惡如崩矣イハク高ニノオルヲ登ト云
 下ニシツルヲ崩ト云サレハ從善如登善ハ進カタキノ謂ナリ從惡如
 崩惡ニハオチイリヤスキノ謂ナリ故ニ善ニスムトキハ聖人トナリ
 賢人トナツテ日々ニ高明ニラモムク惡ニオチイルトキハ愚者トナリ
 不肖トナツテ日々ニ汚下ニ沉小學程愈ニ出タリ故ニ論語ニ擇其善者而從
 之トイヘリ俗儒ステニレカナリ况ヤ佛教何ソ惡ヲハナレテ善ニ
 レタカハサラシヤ問今一心從善ノ一句義ニライテヨロシカラス孟子
 イハ元性ハ善ナリトイヘル此善ハ善惡相對ノ善ニアラス是本善
 善ナリト沙汰ス
 又或人子ニ教テ云謹テ善ヲナスコトナカレ
 子ノ云ク善ヲナスハ將惡ヲナサシカト父カ云善ナラナスコトナカレト
 云况ヤ惡ヲナスコトヲセシヤト云ハ是其天器ヲ全スル者ナリト
 世間ナラ如是今出世無漏ノ極談或ハ善惡不二トアツカセ或ハ

淮南子 見タリ

八一

佛衆
機應
巧
說

無善無惡ト云何ノ本意ニシテ從善ト云ヤ
 汰スルト云一途ニシテ無善無惡等ト云コト實智極聖ノ人大
 悟發明ノ上ニシテ扱トコロノ活風ナリ今ハ第二義門ニ下リテ
 實迷下劣ノ機ニ對スル推智方便ノ手段ナレ假ニ生佛ヲ立淨
 穢ヲ分テ迷悟善惡ヲ差異ス故ニ今善ニ從フト云ナリ故ニ佛
 無善無惡ト云コトニ妙理無性ノ因果ヲタテ、唯惡ヲ轉ノ善
 ニカヘトノ巧說ニコトニ頼ニアカナ可信可行云云

善惡因果經龜鑑卷之四

